

会 議 録

1 会議名

令和4年度第11回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・上越市庭球コートの廃止について（公開）

【自主的審議事項】

- ・消防団のあり方について（公開）
- ・直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

令和4年12月13日（火）午後6時30分から午後7時32分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕（副会長）、
今川芳夫、河野健一、竹田禎広、田中 実、古澤悦雄、
増田和昭、水澤敏夫、水島正人（欠席者5名）
- ・スポーツ推進課： 吉田課長、板垣係長、濱口主事
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：磯田副会長、今川委員

議題【報告事項】上越市庭球コートの廃止について、担当課へ説明を求める。

【スポーツ推進課：吉田課長】

- ・挨拶
- ・「上越市庭球コートの廃止について【事前説明】」に基づき説明

【青山会長】

説明に対し、質疑を求める。

テニスコートの原形復旧ということだが、外周のフェンスと管理小屋はどうなるのか。

【スポーツ推進課：吉田課長】

原形復旧ということで、フェンスや小屋も全て撤去し、更地にすることとしている。

【青山会長】

全て平らにするということか。

【スポーツ推進課：吉田課長】

土地所有者が最終的にどういう形態を希望するかはあると思うが、私どもとしては、設置したものについては、全て撤去することを考えている。

【青山会長】

他に質疑を求めるがなし。

— スポーツ推進課 退室 —

【青山会長】

次に、【自主的審議事項】消防団のあり方について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・資料No.1「自主的審議事項「消防団のあり方について」の協議手順」に基づき説明

【青山会長】

説明に対し、質疑を求めるがなし。

追加の質問を求めるがなし。

次に、地元消防団にどのように確認するか協議する。確認先・確認方法について意見を求める。

【古澤委員】

コロナの関係であまり出ておらず、実際に出ているのは、毎月第3日曜日の午後8時

から10時の間にパトロールをしている。1月に年始大会、4月に春の防火期間、11月に秋の防火週間、12月に年末警戒と項目に沿って出ている。その他に1か月に1回出ている。直江津地区の場合、町内会長の会議の中で団員と懇談会を行った。その中で、毎年言われるのだが、7名から8名という団員で活動していて、結局新しい人が入ってこないで、人数が少なくて思うように活動ができないとのことである。話し合いをしても、多分そのくらいの意見しか出ない。では、どのようにバックアップしたらいいのかということ地域協議会の中で決めていったらいいのかと思っている。団員の確保と言っても言葉だけで終わっている。消防団員の募集のチラシもあるが、それだけで終わっている。今、防災士も市と町内会と一体となって活動しているので、やはりその辺から団員を増やしていくより仕方がないのかと思っている。

【青山会長】

古澤委員に伺いたいのだが、今年の消防団との懇談会は終わったのか。

【古澤委員】

22町内のうち8人が理事になっており、その方と消防団の方5、6人で行った。その時に出た意見も今の話だけである。直江津の場合は、一部の町内会に集中している。部長はうちの町内だが、若い人ばかりなので結構まとまりがある。年をとった方は、ほとんど辞めて若い人ばかりである。話を聞くと五智は組織的にもきちんとやっているということなので、話を聞いてみたらいいのかなと思っている。港町、市之町については、人数が少ないので統合に大賛成ということであり、五智地区の話参考にしたらどうか。

【水島委員】

皆さんの中で、消防団の経験者はおられるか。ここで協議する中で、私は視点が見えてこない。ちょっと違ったことを言うかもしれないが、今、港町と市之町が合併するのは必然的だから仕方がない。先回も質問させていただいたが、人口が減っているから、なり手が少なくなってくる。これは必然だというのは理解できる。ただ、わからないのは、ここに数字が載っているが何名になったら合併になるのか。具体的なことが私はわからないので、質問のしようがなくなっている。例えば、人口なのか、家屋数なのか。大きな工場があって、世帯数がたくさんあるなど、いろいろなことが出てくると思う。それを知っておられる方に質問をして、そういう諸々の中から生み出してくるものを理解しないと質問が出てこないのではないかと。17年前14市町村が合併した。地域的にはものすごく広い状況になった。その中に小さな地域もある。そういう地域でも同じよ

うな人数が消防団員としていなくてはならないのか。本当に細かいことだがわからない。そういうことがわかってくると少しここで、協議できるのかなと思っている。

【田中実委員】

水島さんの質問にお答えしたいと思う。私がやっていた時は地域割りもあったが24名。消防部の中に、消防班というのがあり、それが、7、8名だった。

【田中美佳副会長】

消防のことで、直江津地区のことをお聞きしたが、私の夫は五智の消防団員である。今まで興味がなかったので、いろいろなことを聞かれてもあまりお答えはできないが、一生懸命活動している。1日と15日に必ず夜警に回っているし、話合いをしたりしている。その他資料にある行事にも出ている。この話が出たので、少し話を聞いたのだが、何でも答えられるようだったので、五智の幹部の方たちに来てもらって、自分たちがわからないこととか、話を聞いた上で、どうしていったらいいかを話し合うのがいいのではないか。

【古澤委員】

報告書の45ページの、消防団の再編案のところに記載があるが、消防ポンプ自動車は5人、可搬ポンプ自動車は4人必要とある。この人数がいなくてきちんとした活動ができないということになっていて、それより少ないと合併せざるを得なくなるという状況になっている。その辺を考えると五智は、今でも1日と15日に出ていると聞いている。直江津区全体的な活動にして、行政にも入っていただいて、いい所を見習いながらやっていくのがよいのかと思っている。ただ、直江津の年齢層は若く、20代の方もいる。本当にいいと思う。そういうこともあるので、諸々の問題はあがあるが、一体となった行動をしていったらいいのではないかと考えている。

【増田委員】

そもそも、これが自主的審議事項の項目で挙がっている経緯を知っているのは委員で3人しかいない。当時、問題提起をされたのは青山会長である。もう1度、皆さんに話してもらえないか。分団のことは全然問題ではなかった。1番は、なぜ、消防団員の数が不足しているのか。消防団員にならないのか。その結果はどうなるのか、どういう支障があるのかということ行政からも説明してもらって考えようというのが始まりだった。その辺を少し補足でお願いしたい。

【青山会長】

消防分団があって、その下に消防部がある。港町と市之町が合併するのは、部が一緒になる。古澤委員が説明したように、消防ポンプ自動車を動かせるのは5人、可搬ポンプ自動車は4人と決まっている。それが、欠けると合併せざるを得なくなる。消防団は、火事があった場合に出動するが、第一線でホースは出さない。待機していて、消防署の指示に従い、出す、出さないを決める。鎮火後は、24時間、火元の火が再び燃え上がらないように監視作業がある。その人員が足りるか、足りないかの話である。私が、古澤委員と同じ立場だった時、直江津に60歳以上の人が3、4人いた。その頃60歳で定年を決めていた。今は消防団の定年制はなくなった。消防団協力事業所認定制度というものがあり、事業所に協力要請をしているので消防活動に出られる。近くで火事があれば個人の家でも駆けつけるが、消防団に入っていないと、消防業務に携われない。上越市としては、抑止力を高めるために消防団員が多くいたほうが、協力できるし火災の予防にも繋がる。直江津が少なく、五智が多いのは、直江津には青年会制度があることが関係している。

【水澤委員】

私が、五智の人たちから聞いた話だと旧直江津には消防署があったので、消防団員をあまり養成しなかったという話である。

【青山会長】

直江津も直江津南小学校の前に消防部はある。直江津の青年会は祇園祭を一生懸命やっているから、その関係で消防のほうが少し忘れられがちである。次男、三男、四男と家にいた頃は、出られたが、今、勤務先が郊外にある人が多く、火事だと言っても駆けつけることができない。

【古澤委員】

私が勤めていた頃、同僚で大潟区の消防部の人だったが、とにかく一生懸命だった。防火週間になると皆で集まって見張りをしたりして、すごくまとまりがある。「何かあった場合は出動します」ということで、町場よりも郊外のほうが活発であり、仲間づくりというか、ものすごく親密になっている。その辺の話も聞いたほうがいいのではないかな。

【青山会長】

本題に戻るが、そういう話を直江津分団に聞いても仕方がないと思う。消防団本部に聞いたほうがいいのか。消防団に入る人が少ないのは、勤務体系が違う、社会の環境が変わってしまったからだと思う。

【増田委員】

報告書の38ページから「課題への対応策（提言）」が記載されている。青山会長が言われたように、消防団は第一線で最初に水をかけるのではなく、それは消防署が行う。その辺の役割分担がしっかりとされているはずだが、ほとんどの市民はそのことを知らない。

この前、条例改正があって消防団の定員の見直しがあった。定員が、実団員に合うような形で低くなった。何故そうしたか理由がわからないので、それを聞くことが大切だと思う。水島委員が言われたように、人員算出の根拠はどこにあるのか、そこをしっかりと聞かないといけない。それは消防団の本部から説明してもらわないとわからない。

消防団の一番の問題は、訓練が多いことだと思う。大会のための訓練が早朝だったり、夜間だったり、それが団員皆さんの重荷になっている。今までは、上越市全体で予選会をやって出場チームを決めていた。いつからかわからないが、地域ごとに割り当てになった。よく考えてみれば、青山会長が言われたように、火を消すことが第一ではないので、そのような訓練は本来必要ない。ただ、全国大会があるからやっているようなところがかなりある。その辺のことをどう考えているのか。39ページに「各種訓練や行事を見直す必要がある」と書いてある。これは、団員の皆さんからのアンケート結果を踏まえての提言である。実際にどのような見直したのか、そこが重要である。「自分のたちの身の回りは自分たちで守る」という消防団員に協力するような体制をとることが必要である。

女性消防団というものがある。あまり女性消防団員の募集はないが、女性には火災予防や防火啓発において非常に力を発揮するので必要である。そういう基本的なことを本部から来てもらって、しっかり話を聞くことが必要なのではないかと。

【青山会長】

消防団事務局の危機管理課か、直江津地区の消防団員の方から来てもらうかの2通りあると思う。

【今川委員】

直江津の分団長から来てもらってはどうか。私は若い頃、春日新田の消防団に入っていた。25名から30名ぐらいの定員で、定年が35歳ぐらい。団員の90%は自営業の人だった。春日新田に北消防署ができて、消防署の方から応援してもらって訓練した。春日新田だけがポンプ自動車で、他の部は可搬ポンプ車だった。ポンプ自動車を動かし

て、とりあえず水を出すには最低3人いれば出る。何かあったときは、すぐに来られる人と遅れてくる人とで人数が集めれば、十分消火活動はできる。早い話が、消防団の活動は火災を消すだけである。よほど災害などが無い限りは、何かしてほしいということがあればそれはまた別だが、特に何か要望することはあるのか。

【磯田副会長】

まさに今、最後に「要望することはあるのか」と言われた。それについて、地域協議会が自主的審議として議論していく中で「消防団組織の変革」という上越市全体の大きな枠組みをどうこう言うのは難しいかもしれないが、直江津区として、何かできることがあるのか、あるいは、今の消防団を補完する意味で、何かできないかを議論するべきだと思う。報告書の36ページに「国の対応策の導入検討」として5つ挙げられていて、それに対して「実施する」「導入しない」などと記載されている。38ページから書いてある上越市がやろうとしている対応策は、まず、1丁目1番地の「組織体制の見直し」と、「消防団員の確保」という2つである。しかし、増田委員が言われたような女性団員の話や地域にたくさんいる防災士の人たちを活用しない手はない。現状として、団員として募集をすることがすごく難しい。先ほど言われた、訓練やいろいろな拘束があったり、いろいろなしがらみの中で、人間関係だったり、消防団として飲み会が必ずついて回って、若い人たちは参加したくないとか、お金だけの話ではないという状況の中で、団員が増えていかないという現実がある。そこを補完するために、防災士の活用は何かないのかとか、女性団員のやれることはないのか。それこそ最前線に出ること、あるいは、後方支援の処理だけが消防団活動ではないということを考えたとすれば、そういう部分で地域がもっとそこを補完できることがあるのか。また、今直江津区では、消防団員にお金を上乘せして出しているというお話を聞いた。例えば、その地域の防災士が、年齢でなかなか難しいのかもしれないが、見張りなどの任務や、あるいは、町内での防災活動や警備活動などを担える可能性はあるのではないかと。消防団の課題をまず十分理解した上で、町内の人たちの思いを聞いていく中で、そういう体制づくりができないか議論をしていくべきではないかと思う。

【青山会長】

1番の問題は、団員数が少ないということである。だから、報酬を上げるとか、そういうことが出てくる。報酬を上げたら入ってくるのではないかとか、女性団員はどうかと前日も聞いた。

【水島委員】

会長が言われたように、いろいろなことをやってみることは必要だと思う。やってみて駄目だったら、また話をしようというくらいの覚悟でやらないと、なかなか進まないと思う。

【青山会長】

町内会長も助成しているので、消防団員と意見交換をしている。それでも増えない。この辺の問題を消防団の人を呼んで、団員を増やすために協力できるように、相談したらどうかと思う。

【古澤委員】

町内会としても、自主防災組織として防災の対応は一生懸命やっている。しかし、消防団となると二の足を踏む現状がある。だから、上越市消防団適正配置検討委員会が報告書でいろいろな対応策を提言した。ただ、それが一向に進んでいない。町内会にそういう話も来ていない。では、それを具体的にどうするのか。一歩前に押し出してもらおう。そういう活動をしてもらえれば、何らかの形で動けるのではないかな。

【青山会長】

直江津分団の役員に来ていただいて実状を聞いたらどうか。

【増田委員】

おいでいただくのは非常にいいことだが、検討委員会が報告書をまとめ、行政に提言している。提言した結果、どんな方が、どういうふうに改善されたかが全く見えていない。そこが見えない中で、どうこう言ってもどうにもならない。

もう一つは、平成31年3月に提言されているので、何らかの形で改善されているはずである。どのように改善されたか、我々はほとんど知らない。改善されたが、なおかつ、こういう不具合がある、現場はこういうことに困っているということを私たちがきちんとお聞きして、「そうですか。大変ですね。私たちも地域協議会として、困っていることは改善に向けて意見書を出しますからね」というのが地域協議会の役割である。

なので、まず、改善策がどうなったかを説明してもらわなければならない。

次に、現場の皆さんが改善された結果をもって、それでもまだ困っていることは何かを聞かせていただくという進め方をしたらいいのではないかな。

【青山会長】

危機管理課から、検討委員会の提言を受けての対応を報告してもらおう。それについて、

意見があったら出す。それが終わった後で、分団等の話になる。

【中村センター長】

確認だが、資料No.1の委員から出された質問事項の1つ目、報告書の38ページにある課題への対応策が書いてあるが、実際、消防団の本部ではどのように対応しているのか、このあたりを中心に、危機管理課から説明を受けるということによろしいか。

【青山会長】

それで進めてほしい。

次に、【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

【中村センター長】

福島城を愛する会についての報告をさせていただきたい。事務局で、福島城を愛する会に意見交換の打診を行ったところ、会の活動、体制等の問題もあり、意見交換に応じられないわけではないが、少し考えさせてほしいという感じだった。

正副会長と相談し、愛する会の役員と地域協議会の正副会長で、日中を中心に意見交換をさせていただきたいと考えている。

【青山会長】

年明けにお互いの三役で意見交換をするということによろしいか。

(同意の声)

次に、「その他」について事務局へ説明を求める。

【小川係長】

1点目、令和4年度の地域活動支援事業について報告がある。直江津プライド2021の「天王川クリーンナップ大作戦事業」と「直江津水族館ロード（仮称）アート修景整備事業」について、提案では7月から9月の実施予定だったが、実施にあたり地域の方の要望等を受けて、夏場の暑い時期を避けるということ補助金の交付申請時に報告を受けていた。その後、スケジュール調整を図っていたが今に至っており、降雪時の実施を避けて事業の実施を3月に行う予定であるということで、変更の届け出があった。

・次回協議会：1月17日（火）午後6時30分から

【青山会長】

他に委員の皆さんから何かないか。

【田中実委員】

事務局にお願いだが、直江津の町を歩いたところ、ガス水道メーターの蓋が古くなっ

て何か所か破損していた。子どもや高齢者が通った場合、転んだりすると重大な事故が発生する可能性もあるので、ガス水道局に話していただきたい。

2点目、郷津海岸の通りだが、粗大ごみがものすごく放置されている。また、道路に側溝があるが、強風によって浜風が側溝の中に入って、雨が降ると水はけが悪いので、道路に雨水が10センチぐらい溜まっているので対応をお願いしたい。

【中村センター長】

道路の冠水については、道路課に伝えたいと思う。水道メーターの蓋の破損については、破損箇所を後ほど教えていただければと思う。

【青山会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。